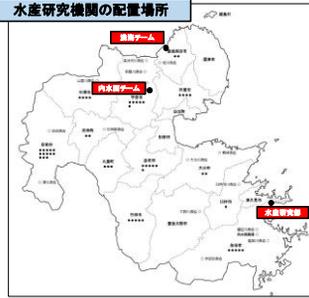


# 4 情報交換

## ・大分県内水面研究の変革について

大分県農林水産研究指導センター水産研究部 部長 古川英一

大分県内水面研究の変革



大分県の内水面研究施設の沿革

内水面漁業試験場	
T.4	大分県水産試験場(大分市)
S.10	大分県水産試験場(大分県別府市(中野町))
S.12	入居試験開始
+	池田試験開始
S.29	入居試験開始
S.33	入居試験開始(2区画)
S.42	内水面漁業試験場創設(安心観野)
	大分県水産試験場
S.46	入居試験開始
S.57	スポンジ種苗生産供給施設開設
H.2	冷水魚研究センター開設
H.7	スポンジ種苗生産供給施設開設
H.8	大分県農林水産研究センター水産試験場内水面研究所
H.17	大分県農林水産研究センター水産試験場内水面研究所
H.22	大分県農林水産研究センター水産試験場内水面グループ内水面チーム冷水魚研究センター開館
H.31	内水面研究施設閉鎖

コイの取り上げ



大分県内水面漁業試験場



河川水浄化施設



PAC  
(ポリ塩化アルミニウム)



ガラス温室(稚亀)



ガラス温室(稚亀)



成亀棟



親亀池



アユ飼育池



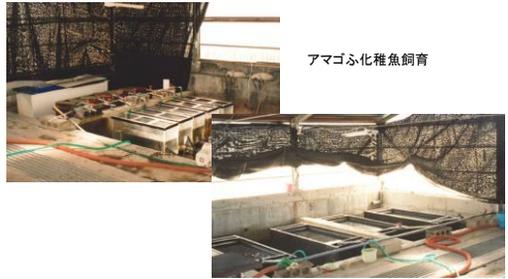
採卵用アユの選別



ドジョウ種苗生産施設



アマゴふ化種魚飼育



アマゴ発眼卵放流試験？



調査研究対象魚種とテーマ

	種苗生産	養殖技術	放流効果	飼料研究	魚病	資源調査	生態調査	その他
コイ	○	○						
アマゴ	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤマメ	○	○	○	○	○	○	○	○
ニジマス	○	○			○			○
スッポン	○	○	○	○	○		○	○
アユ	○	○	○	○	○	○	○	○
フジョウ	○	○			○			○
モクズガニ						○	○	○
ウナギ		○	○	○	○	○	○	○
ヘラブナ	○		○			○		
鱒	○		○			○		
ワカサギ			○				○	
カマツカ	○							
オイカワ	○							
ベヘレイ	○	○	○	○			○	
ヨシゴイ	○	○						
マシウミ	○							

# スッポン



産卵期

- ・自然条件下では、6~8月。
- ・ハウス等で加温すると4月から産卵開始。

産卵場



産卵場



卵



孵化



孵化後



給餌



肥育養成(5~9月、300→1000g)



収穫(9月~翌年1月)



### スッポン研究の経緯

年度	試験研究	備考
43	温泉熱利用による稚魚の養成試験	
44	種苗生産研究、細菌性疾患について	
45	細菌検査結果および感染試験について	
46	温泉水利用による養成試験	
47	稚魚の飼育槽と飼料との関係について	種苗生産・養殖技術技術園楽
49	親魚の産卵処理について	親魚の産卵処理（年間産卵）
53	冬期加温飼育法の改善	
56	養殖技術に関する研究	
57		スッポン種苗生産供給施設
59	放流による生態調査	放流・養殖用として稚魚供給（販売）開始
3	飼料の代替原料園楽試験	飼料の代替原料園楽
9	スッポン用E.P.飼料の園楽	
13	加温養殖の発熱スチロールによる保温効果	
20	産卵増殖支援と養殖技術園楽・指導	
24		養殖業者への販売中止（収入予算廃止）
25	不明病の原因究明	

# ドジョウ



ドジョウ稚魚出荷



養殖ドジョウの  
出荷



ドジョウ研究と種苗生産供給実績

年度	産 額	事業報告名	備考
44~46		人工種苗試験-JR339	
47	60	採卵調査試験	
5	5	種苗生産試験	
7	7	採卵後の産管理	ドジョウ種苗生産供給施設
8		養魚養成事業	
9	108,500	種苗生産事業 採卵日を利用した養殖経営の一環	養殖業者(株)新田利用に種苗供給開始
10	177,500	養殖技術開発事業(飼料の検討)	
11	250,000		
12	290,800		
13	294,700		
14	192,500	養殖技術開発事業(養殖普及/遺伝的変異)	種苗生産技術移転
15	91,000	養殖技術開発事業(養殖普及)	屋内高密度養殖生産技術確立
16	51,300		
17	301,000	養殖技術開発事業(養殖普及/販路開拓)	屋内高密度養殖生産準備 屋内高密度養殖生産開始
18	1,094,000		新規入塾養殖業者参入
19	824,400	養殖技術開発事業(養殖技術普及/産業化)	本格的な企業的生産 種苗事業の産技術移転
20	995,300		
21	938,000		
22	438,500		
23	323,500	淡水魚養殖技術開発	養殖業者による安定した種苗生産
24		屋内高密度養殖技術の高密度化(飼料の検討等)	養殖業者への販売中止(収入下算廃止)
25		屋内高密度養殖技術の高密度化(公認魚生産技術開発)	
26			
27			

## 水産研究体制の見直し

農林水産企画課を中心とした検討

内水面チームの研究について



### ★内水面チーム(正職員3名)

求められる機能(現場の要望)	対応する施設等	現行での対応状況	対応に当たするための条件
①疾病対策、養殖疾病対策	魚病施設	△ (迅速・広域対応種)	迅速性、診断機器の性能
②高付加価値養殖魚開発(養殖飼料、新魚種開発)	種苗生産施設 養殖施設	— (研究課題終了) (疾病を含めた)養殖指導体制へ移行	(研究課題なし) (疾病を含めた)養殖指導体制へ移行
③アユ増殖技術対策	器材等	△ (広域対応種)	迅速性等効率的な対応
④カワウ被害防除対策	器材等	○ (研究課題終了)	調査研究から駆除へニーズ移行
⑤河川環境調査	器材等	△ (調査回数少ない)	迅速性等効率的な対応
⑥消費対策、加工品開発	—	— (普及で対応)	きめの細かい対応

### 要望に応えるためには

**体 制**： 現行の研究体制では迅速かつ効率的な対応が困難

**施 設**： 本館及び魚病診断施設は不可欠

**研究課題**： 研究課題終了したものは指導等へ移行

**課 題**： 疾病対策等を中心とした現場への対応の迅速性等

- ① 東北域及び内水面での疾病対策(迅速性・対応力の強化)
- ② 内水面の指導・調査体制の迅速性等効率的な対応





ご清聴ありがとうございました。

大分県農林水産研究指導センター  
水産研究部 古川英一